

54年度関西大学史学会会計決算報告書

	振替	現金	預金	総計
前年度より繰越	90,621	237,529	-26,997	301,153
会費	40,000	44,500	917,000	1,001,500
史泉売上	14,505	23,400		37,905
寄付 <small>(網子有坂氏 大庭三博士)</small>		45,000		45,000
利息			11,532	11,532
預金			130,000	130,000
その他		30,323		30,323
計	145,126	380,752	1,031,535	1,557,413
事務費		75,000		75,000
史学会大会費			50,000	50,000
史泉54号			645,485	645,485
史泉送料			30,000	30,000
製本代			208,700	208,700
振込用紙			7,660	7,660
事務員謝金		110,520		110,520
預金		130,000		130,000
払出	90,621			90,621
計	90,621	315,520	941,845	1,347,986
残高	54,505	65,232	89,690	209,427

も同様であるが、関係史という分野は二国間、あるいはそれ以上の国の史料を扱わねばならない必要から研究者が育ちにくい面があるが、これからは、日本で言う、日本史、東洋史、西洋史といった枠に取らわれない歴史研究者を養成していくことが、教育機関に携わる者としての急務であるよう

痛感した。さらに、北京大学で研究中の榎原考古学研究所の菅谷文則氏の滞在中の様子を聞くのと、考古学という分野において、日本、中国との研究舞台は別であっても両国の研究分野に通じていなければ解決できないような問題にまで研究が進展してきている状況

にあり、このことは別に考古学に限らず、他の歴史研究分野にも共通しているとの感を深くした次第である。以上、雑駁な知見を述べて、両学会の参加報告記とした。諸賢の御参考になれば幸である。

(一九八〇年十一月)